

第41回 うつのみやこども賞だより

令和6(2024)年度 5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番友達にすすめたい本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『キオクがない!』

いとう みく / 作 平沢 下戸 / 画 (文研出版)

～読んだ本の感想より～

- キオクがなくて、新しい自分に生まれかわり、自分の過去についてふりかえるのが良かった。周りにめいわくをかけてしまったけど、また歩みだそうとして、前向きになれた。
- てんかいが二度三度変わって、最後までおわりが分からないところがおもしろくてわくわくした。
- 倉持や弟の与志郎が、今のほうが良いと言ってくれてよかったねと思いました。
- 自分が自殺しようとしてキオクがなくなってしまったからといって、自分がやってしまったことは取りもどせないけど、たくさんできることはあるんだなと思いました。
- 自分がおかしてしまった過去の罪について考えていくのがおもしろかった。
- 記憶喪失になる前の主人公は一体どんな人物だったのかが物語が進んでいくうちに明らかになっていくところがハラハラしておもしろかったです。



令和6年10月6日

『ロボットのたまごをひろったら』

奈雅月 ありす / 作 (ポプラ社)

- あまり人とかわからない主人公が山場でみんなと協力して、苦難をとびこえているのがよかったです。
- ロボットに対して最初はのり気じゃなかったさいぜん君も、みんなで心を一つにムーを助けていくところがよかったです。
- 巧がムーを分かいてしまうところはどきどきしました。
- 最初に手にしたしかくの箱のようなものが“たまご”としてロボットがそだっていくのは面白かった。
- ロボットのムーを育てることを通じて、ロボットも、主人公も成長していくところがおもしろかったです。

『トモルの海』

戸部 寧子 / 作 (フレーベル館)

- 主人公がたくさん疑問をかかえるので、「もしかしてこうなのかな？」と考えながら読むことができ、とても面白かったです。
- トモルがおばあちゃんの家へ行った間におきたこと。トモルが本当は一人っ子じゃなかったこと。いろんなことがまざりあっても、お母さんがめぐるちゃんのことを話しているところはとっても感動しました。
- めぐるちゃんとトモルはほとんど言い合いをしてたけど、その中にめぐるちゃんのお姉ちゃんらしさもあっておもしろかった。
- トモルがめぐるちゃんにめぐりめぐって会えて、本当によかったなと思いました。

『スタート』

楠 章子 / 作 (あかね書房)

- 色々ななやみを持った登場人物が出てきて、毎回猫男が出てくる所が不気味だった。
- シイがかいごをやらされてにげだしたいという気持ちになりますが、最後にお母さんが心配してくれるすがたで少しほっとしました。
- じっさいに同じなやみをかかえている人はもちろん、ナナのように、苦しみを持つ人との関係になやむ人も共感できる物語だった。
- ふだん生活している中でも、家の人のことやいじめのことでなやんでいる人がいるんだなと改めて思いました。